

脚すことには阿じてない。否反對に益々労働組合の政治闘争に對する明確なる積極的方針の確立を必要とする。而してこの主たる點は左の如くである。

1、労働組合の政黨支持

我國の労働組合が永く政黨的職分を保持し來つたと及び労働組合に於ける政黨的職分の分化過程が無産政黨の確立の過程に合流したことは、我等の既に見た所である。加之資本主義社會に於ける階級的闘争の活動力はプロレタリアであるが、その階級的なものは労働組合に於ける労働者の階級的政治闘争に存在する。従つて現段階に於て労働階級が政治闘争に進出するに當つては、労働組合の階級的政治闘争に對する階級的参加が絶対に必要である。之なくしては無産政黨の階級的発展性は失はれる。然るに今日では政黨に對する階級的参加の自由が禁断せられてゐるので、労働組合はその合法的な方法として政黨に對する支持の形式をとる。従つて現段階に於ける労働階級の政治的進出の最も有効にして階級的方針は、その階級的政治闘争力を分散することなく行使するにあり、労働組合の政黨支持の決定は實質的に階級的政治闘争の一様式として必要である。

2、労働組合の政治闘争の意義

現段階に於ては労働組合の政治的進出は尙經濟闘争に結合する過程にあるが故に、その政治的進出は尙組合主義的政治闘争の範圍に止まつてゐる。だが資本主義社會に於ける階級闘争を徹底的に遂行する活動力はプロレタリアであり、その階級的形態は労働組合の政治闘争の様式の中に見られる。また労働組合の政治闘争はかかる發展性を内包するが故に、現段階に於て共同戦線黨の活動力なり、更にこの黨を以て階級的に發展せしめる可能性をもつものである。それ故に労働組合の政治闘争は、現下に於ては労働組合の政治的要求を代表する部分の政治闘争であるにしてもその發展性は實に無産階級政治勢力の擴大強化の上に於て一定の歴史的役割をなすものである。

我等はかかる意義に於ける労働組合の政治闘争を重要視するが故に、労働組合自体に於ける政治的意義の高揚と政治的訓練を今後に於て益々重要視する。かかる意義に於ける労働組合の政治闘争は共同戦線黨のそれと對立するもの、相互に關聯するものであることは勿論である。特に我國の労働組合運動は久しく政黨的職分を具備し來つたが故に、その無産政黨樹立後に於ける労働組合の政治闘争は急速にかゝる傾向をたどりつゝある。

ハ、黨と組合との關係

現段階に於ては支持政黨と労働組合とは相互關係に立つことは上述の「労働組合の政治運動」の意義よりして明白である。またこの相互關係の活用如何は兩者の政治闘争の展開の上に重要性をもつ我等は今日迄の労働組合が政黨的職分を脱脚するの傾向を促進し同時に黨と組合との相互關係を確立して共同闘争の實を擧げなければならぬ。而してその主たるものは黨と組合との組織上及び統制上の交錯混亂を絕對的に避けることである。例へば、組合政治部の確立、連絡委員會の設置、黨の日常闘争を援助するために黨の組織的組織としての工場班乃至は組合班を活用すること等は當面の問題である。

六、國際的諸運動に關する方針

我國資本主義の變期的發展の結果、我が組合運動は、先進社會運動國に比し極めて變期的状態を惹起せしめて居る。我國の労働組合運動の國際運動に對する態度はその代表的なものである。即ち我國の資本主義はその帝國主義的性質最も濃厚なるなかに常に帝國戦争の危機に脅かされて、之に反抗する労働者の意識は國際無産階級運動との提携の上に向けられて居る。かくの如く我國労働階級の國際進出に對する意識水準は比較的高揚せられてゐる反面に於て、その現實の勢力は尙微弱であることを否めないものがある。かかる反面は國內労働條件の向上を要求する國際労働條約の如きが尙我國労働組合の闘争を刺激しつゝあるに於ても明かであらう。斯くて日本ブルジョアジーは常に國際労働條約の實施を極力回避すると共に、労働運動の國際的進出に對しては欺瞞と阻止の態度を以て臨みつゝある。かかる情勢は我國労働階級の國際運動に對する態度の未だ固定してゐないことを物語ると共に、今日大衆的規模による國際的進出の可能性を見んことを意味する。従つて我國の労働組合運動は諸外國のそれの如く、その政治的闘争展開の過程に於て、第二、第三、その他の國際無産階級運動の系列に伍するの段階に到達してゐない。

従つて我等は今日の政治に於ては、國內に於ける労働組合運動の擴大強化、國內戦線の統一、植民

地被卑迫民族の解放運動の支持、労働プロシアに對する干渉及び帝國主義勢力の進出に對する闘争の如き、個々の可能な活動を通じて國際的提携を實質的に増進せしめる方針を以てしなくてはならぬ。

この態度は國際労働會議に對する共同闘争の態度に於ても異なるものではない。由來國際労働會議に現下の世界的反動期に於ける役割は、その國際的規模に於ける労働階級主義による労働者大衆の欺瞞以外の何物でもない。何へば資本主義の労働條件と國際労働條約の關係に見ても、労働條件は何等の強制力を有さないことを理由として、國內に於ける労働條件の改善に役立つべき條約の實施は拒否せられ、我國労働階級は國內に於ける労働者團結を認認する労働組合法の制定を拒否せしめ、労働者代表に右翼労働組合の八百長選挙による欺瞞代表を送るの手段をなすつゝある。かくして國際労働會議に對しては否認的態度をとる。國際的欺瞞に挑戦することを原則とする。只之を對しては宣傳権を行使することの許さず、且つ労働者は右翼勢力の擾亂のためは戦術として利用價値のあることに限り來つたが、之すらも今後には之の利用の餘地を疑ひつゝある。

八、時局問題に對する我等の闘争方針

既に「戦後第三期」に於ける日本資本主義の矛盾の擴大激化の分析に於て見たる如く、現下の日本資本主義は社會的失業と労働不安を現出し、全労働者大衆の政治的立場は漸に開始せられんとし居る。かくて我が労働組合運動はその凡そを擧げて一大闘争を敢行すべき時局に當面して居る。而してその闘争の主流となすものは、産業合理化反對、失業反對、労働立法獲得、労働組合の組織の發展、農民運動との提携、大衆的闘争等はその時局的闘争に於ける特殊の重要性を主たる闘争方針と見なければならぬ。

一、産業合理化反對運動

産業合理化は世界資本主義の相對的安定期に於ける資本の全組織的再編成であり、本質的には労働者の大衆的進出と賃銀の極度の低下を意味することは既に言及せられた。産業合理化によつて作り出されるものはその範圍を全産業の労働者に及ぼす。その中には多數の無産階級者を含む。且つ復業の見込なき不景氣からいへば、戦前の普通の失業とは異なるものである。またこの合理化に於ける労働の強度化同一時間に従來よりも多くの労働を搾取し掛けるは、労働者の極度の搾取と肉體的消耗をもたらす點に於て、普通の競争と異つてゐる。かかる資本家の未曾有の全組織的再編成と對峙するとともに、労働組合運動の全組織は餘りに短かい現状にある。従つて従來の如き既存の組織線に沿つての進出はこの資本家の組織を反抗することに殆ど不可能である。だが我等は到る所に於ける未組織の進出たる大衆が自然發生的にこの組織政勢に對抗して憤起する傾向のあるを見る。我等は全組織的再編成の組織を以て政治的政勢に轉すべき條件を見るのである。我が同盟は全労働階級との共同闘争により、職場代表會議の戦術を以て、廣範な労働者大衆の間に不満と闘争を激發し、更に無産政黨との協力により果敢なる政治闘争を遂行しなければならぬ。

二、失業反對（資本家の産業合理化）

我國資本主義の變期的發展はその過程に於て早くも反動性を發揚し、諸外國の如き社會政策等乃至は労働立法の制定すら拒否し今日に至つてゐる。またか反動期に於ける我國労働組合運動の發展性を阻害したことに既に述べた。かくて我國労働組合運動は今日自らの政治的進出に對して労働者團結と監督の法認を内容とする労働組合の獲得のために憤起せしめ居る。共同闘争はこの闘争とそれ自體に於て現下の未組織大衆に對する宣傳と組織擴大の好問題目たるを認め且つ本労働組合運動の大衆的進出のための必須條件と認めて大衆的的政治闘争を展開せんとす。

三、労働立法獲得運動

現下の諸情勢は労働組合戦線の統一を要求すること切である。しかも資本主義の産業合理化に直面して闘争化しつゝある大衆の壓力は茲には組合戦線統一を促しつゝある。共同闘争の結果にかゝる壓力に更に拍車を加へた。我等の統一方針は究極に於て全國的産業別組合の確立とその大合同による單一的同盟の結成であるが、現下の諸情勢に即して先づ共同同盟の組織を實現せしめなければならぬ。共同闘争は、産業合理化反對、失業反對、労働組合法獲得の諸闘争のための全國労働組合

四、労働組合戦線統一の運動

現下の諸情勢は労働組合戦線の統一を要求すること切である。しかも資本主義の産業合理化に直面して闘争化しつゝある大衆の壓力は茲には組合戦線統一を促しつゝある。共同闘争の結果にかゝる壓力に更に拍車を加へた。我等の統一方針は究極に於て全國的産業別組合の確立とその大合同による單一的同盟の結成であるが、現下の諸情勢に即して先づ共同同盟の組織を實現せしめなければならぬ。共同闘争は、産業合理化反對、失業反對、労働組合法獲得の諸闘争のための全國労働組合